



2011年1月

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会



## 「元気で長生きを目指して」

偕行会グループ 理事長 鳥山 高伸

新年、明けましておめでとうございます。日本も変わり、昨年よりは今年、今年よりも来年が良い年になると期待できるような時代は過ぎました。日本の現状を考えると暗くなるばかりです。

さて、偕行会は設立32年目を迎えます。透析の専門病院から透析診療の向上のみならず、病院機能を高めて合併症対策に取り組み、透析医療の質を高めてきました。結果として全国の透析患者さんの5年生存率が60%に対して偕行会の透析患者さんの5年生存率は77%と大きな差があります。

これは透析の水の清浄化や設備の更新、日常的な透析診療を大事にしてきたことや透析クリニックと共立病院が共同で合併症対策に早期から取り組んだことによると思います。

偕行会では透析医療の質を向上させるため、不幸にしてお亡くなりになった透析の患者さんの死亡原因を調査しています。平成21年度は88名の患者さんが亡くなりましたが(88/1273=6.9%)ですが、全国では年間に9.8%の患者さんが亡くなっています。

